

第64回国立大学図書館協会総会研究集会  
「学術情報のオープン化の現状と大学図書館  
における今後の対応について」  
(2017年6月23日)

# 海外における学術雑誌の オープンアクセス化の動向

東京大学附属図書館／JUSTICE運営委員会

細川 聖二

# 本日の内容

---

- OA（オープンアクセス）とは
  - OAジャーナル
  - 購読型モデルと著者支払モデル
  - 新たな出版モデルへの転換-SCOAP<sup>3</sup>-
- 海外の動向
  - 欧米の主な事例
  - オフセット契約
  - OA2020
- JUSTICEでのOA対応の取り組み
  - 論文公表実態調査
  - 今後に向けて

# OA（オープンアクセス）とは

---

- 雑誌論文をインターネット上で自由に利用することができ、全ての利用者に、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、全文へのリンク、索引化のためのクローल、ソフトウェアへの取り込み、その他合法的な目的での利用を（中略）財政的、法的、技術的な障壁なしに許可すること（Budapest Open Access Initiative, 2002）
- 2つの実現方式
  - セルフ・アーカイビング（グリーンOA）
  - OAジャーナル（ゴールドOA） ⇒ **こちらを中心に**

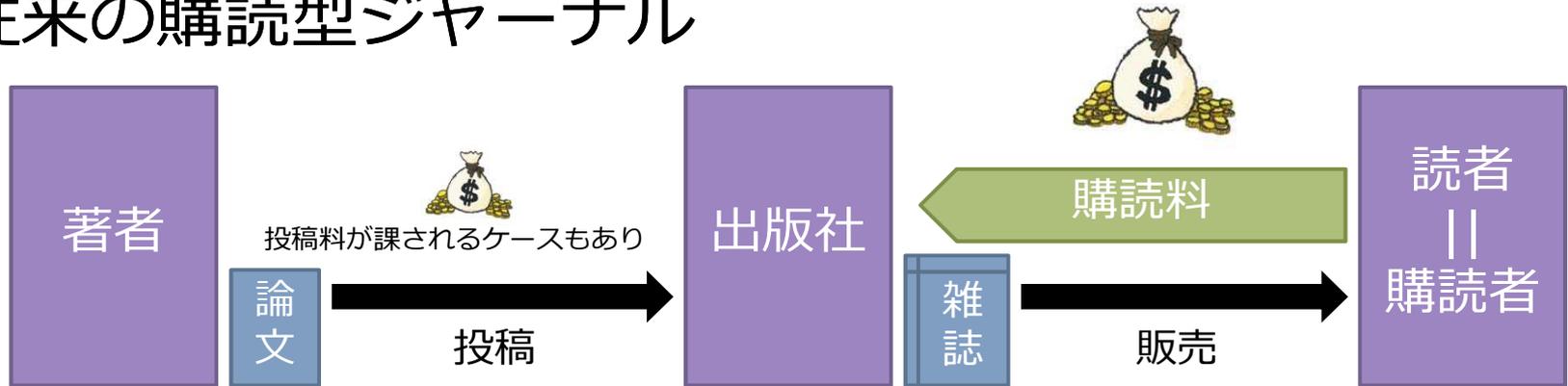
# OAジャーナル（ゴールドOA）

---

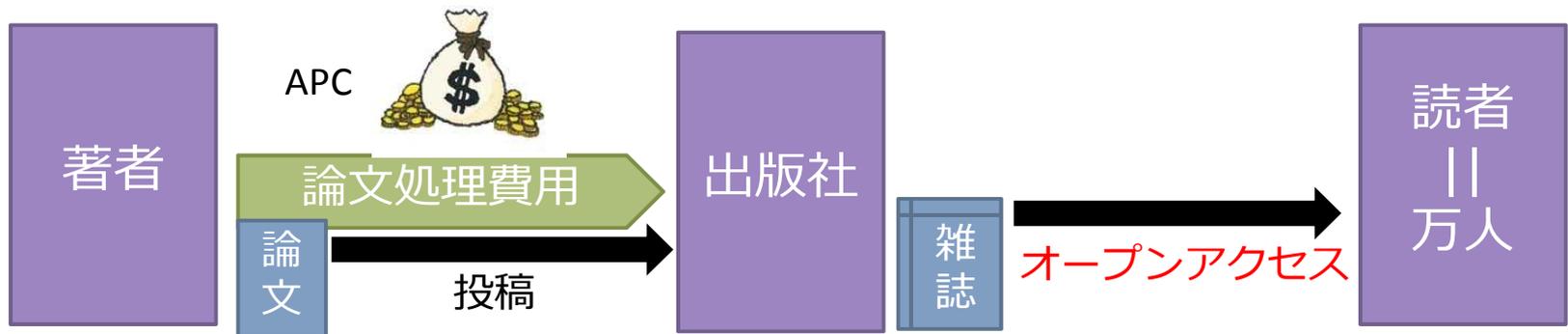
- 世界的に主流のOAビジネスモデル
  - = 著者支払モデル（⇔購読型モデル）
  - 論文処理費用（APC：Article Processing Charge）
- フルOAジャーナル
  - 全収録論文に無料でアクセスできるジャーナル
  - フルOAジャーナル数：9,500誌（平成29年6月現在）  
DOAJ（<http://www.doaj.org/>）による
- ハイブリットジャーナル
  - 購読型ジャーナルだが、論文単位でOAにするオプション（著者がAPCを支払った論文だけOA）
  - 購読料とAPCの二重取り（Double Dipping）が課題

# 購読型ジャーナルとOAジャーナル

## 従来の購読型ジャーナル



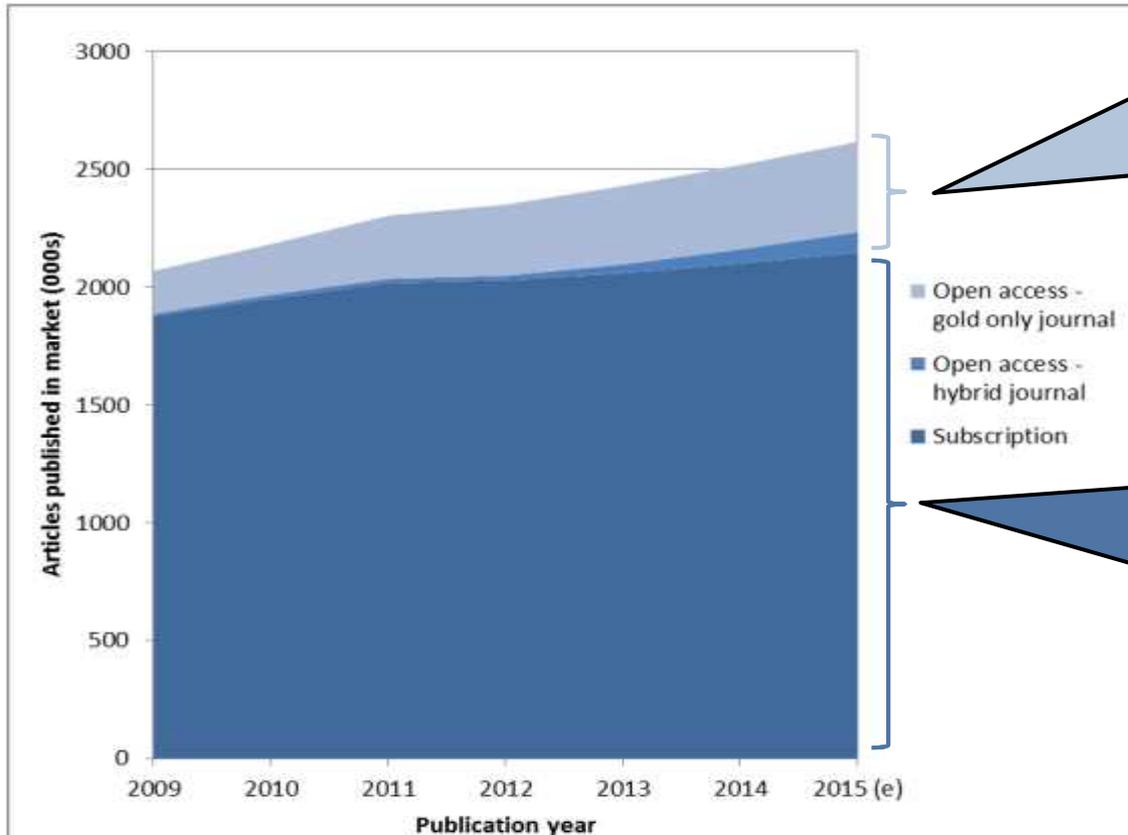
## OAジャーナル



杉田茂樹. オープンアクセス出版の動向. 国立大学図書館協会学術情報流通セミナー. 2013.1.24

# (参考) 出版モデル別の論文数

2015年に購読型モデルで約210万論文、OAで約50万論文が出版



Source: Elsevier internal Open Access market tracking

OA (フルOA+ハイブリット)

- 全体の18% (うち著者支払モデル13%)
- 毎年12~24%の割合で増加

購読型

- 全体の82%
- 毎年1~4%の割合で増加

# 2つの出版モデルをめぐる状況

---

## ● 購読型モデル

- ビッグディール（パッケージ契約）が主流（＝購読規模維持が前提のモデル）
- 増え続ける論文数（価格上昇）と購読料の頭打ち  
⇒限界が目前に
- 新しい契約モデルの模索...
- ビッグディールからの撤退も...

## ● 著者支払モデル

- APCの管理（そもそもいくら払っているのか？額は適正か？誰が負担すべきか？）
- 商業出版社の新たなビジネスに利するシステム？
- 査読や質への懸念（いわゆるPredatory Open-Access Publishers）

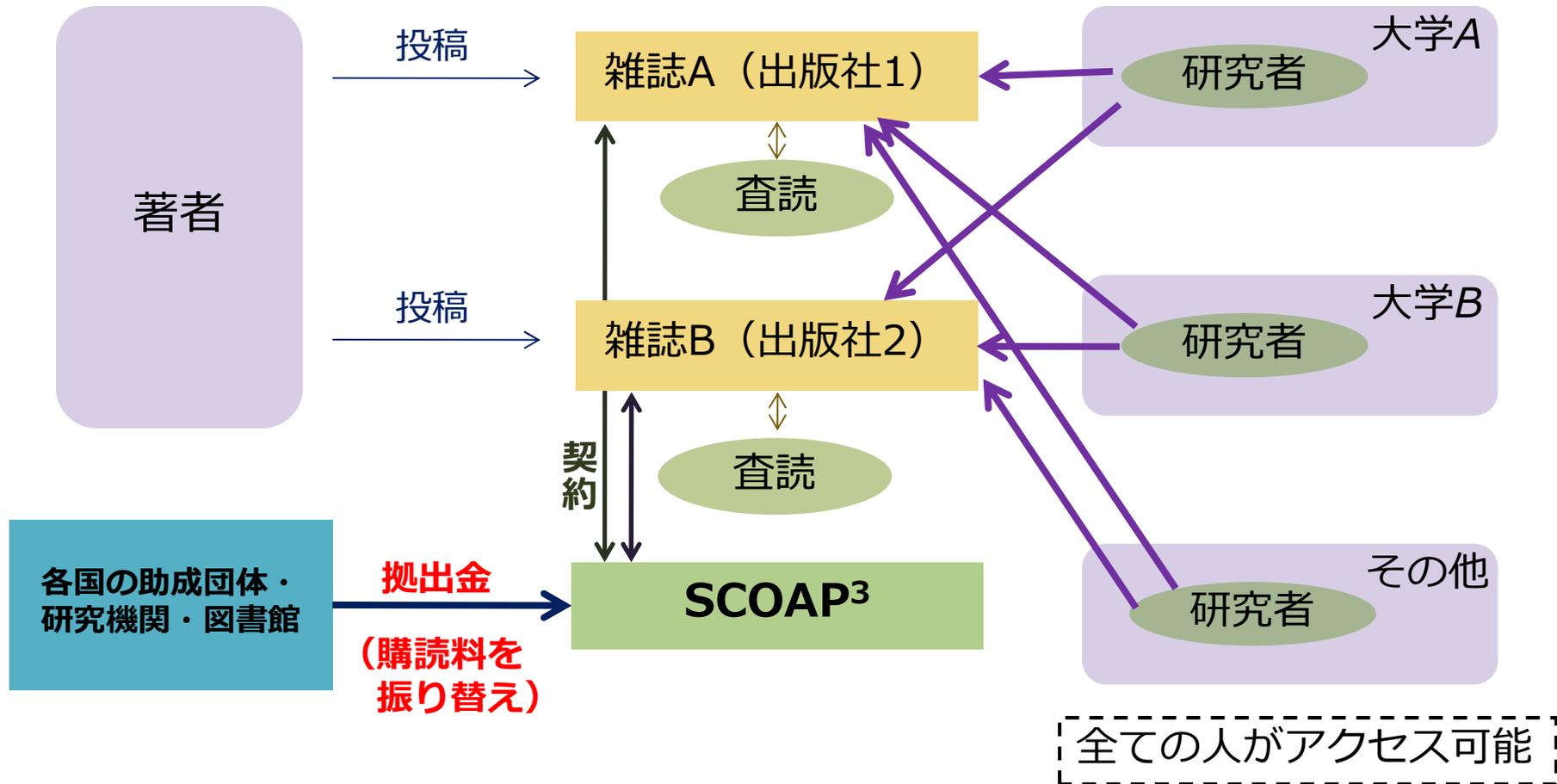
# 新たな出版モデルへの転換

## ● SCOAP<sup>3</sup>

<https://scoap3.org/>

- CERN（欧州原子核研究機構）が主導する高エネルギー物理学（HEP）分野の主要雑誌のOAを目指す国際連携イニシアティブ
- 購読料を原資としてAPCに振り替える（Redirection）
- 投稿論文数により国別の負担率を試算
  - 日本は世界で第4位、7.1%のシェア（2014-15年実績）
- フェーズ1（2014-16）
  - 10誌がOA化、3年で13,000件以上の論文出版
- フェーズ2（2017-19）
  - 2018年からAPS（アメリカ物理学会）の3誌が参加予定  
⇒HEP分野の論文の87%をSCOAP<sup>3</sup>でカバー

# (参考) SCOAP<sup>3</sup>による出版モデル



# 海外の動向：購読型からOAへ

---

- 欧米の主な事例

- イギリス

- RUCK（英国研究会議）OA方針（2012）
- JISC（英国情報システム合同委員会）：Springer Compact

- オランダ

- 2024年までに国内の論文を100%OA化
- VSNU（オランダ大学協会）：各出版社とOA移行に向けた交渉

- ドイツ

- マックスプランクデジタルライブラリー：OA2020（2016）
- ドイツ科学機構連合、HRK（ドイツ大学長会議）：Project DEAL（エルゼビア社との交渉決裂）

- アメリカ

- カリフォルニア大学：“Pay it Forward Project”

# 購読型からOAへ：オフセット契約

- Springer Compact

- Springerのハイブリットジャーナル（1,700誌）のOA出版権（Open Choice=APC）と購読型ジャーナルのパッケージ（Springer Link約2,000誌）の包括契約（オフセット契約）

- 導入事例

- オランダ（VSNU/KNAW）、イギリス（JISC）、ドイツ（MPG）、オーストラリア（Austrian Academic Library Consortium/Austrian Science Fund）、スウェーデン（BIBSAM）
- ESAC（INTACT）<http://esac-initiative.org/offsetting/>

- 効果

- JISCでは、参加91機関の研究者のOA論文数が急増（2015→2016で205%増）
- うち18機関では包括契約で支払った額以上の論文が投稿された

JISC Open Access Digest (Issue 5 May 2017)

<http://repository.jisc.ac.uk/6654/1/OA-digest-May-2017.pdf>

# OA2020

## ● 目的

<https://oa2020.org/>

- 学術雑誌のOA化の迅速・円滑な転換を目指す
- 2020年までに主要学術雑誌をOAに転換（Flipping）

## ● 背景

- OAの進展は不十分（出版と同時のOA論文率14-15%）
- 購読型モデルの限界

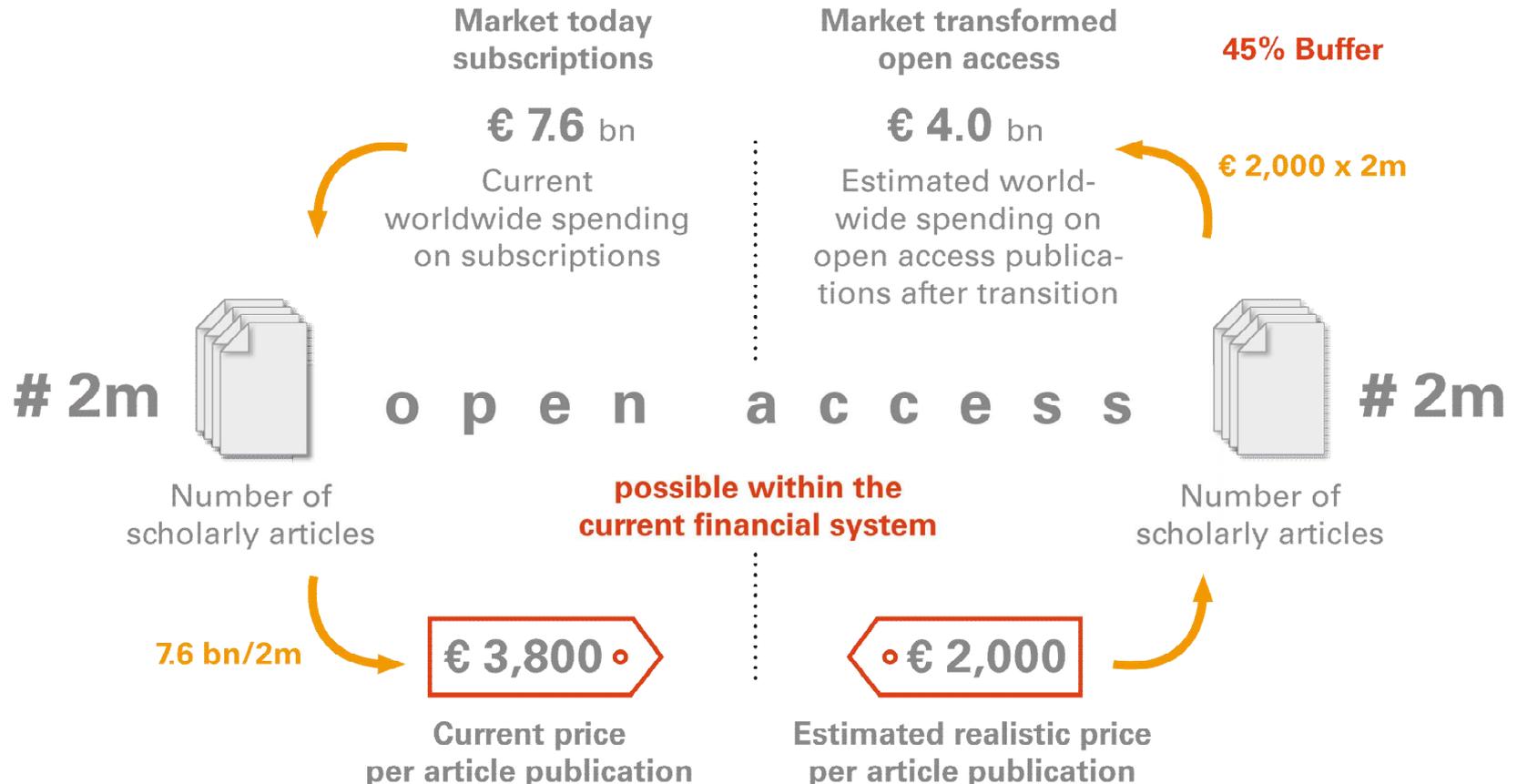
## ● 活動

- 関心表明（EoI）：86機関署名（2017.6現在）
  - 日本からはJUSTICEが署名（2016.8）
- ベルリン13会議（2017.3）
  - 各国の協力をコーディネートする組織作り（National Contact Point：NCP）

完全なOA化のためには研究者コミュニティの力が不可欠

# “フリッピング”の試算

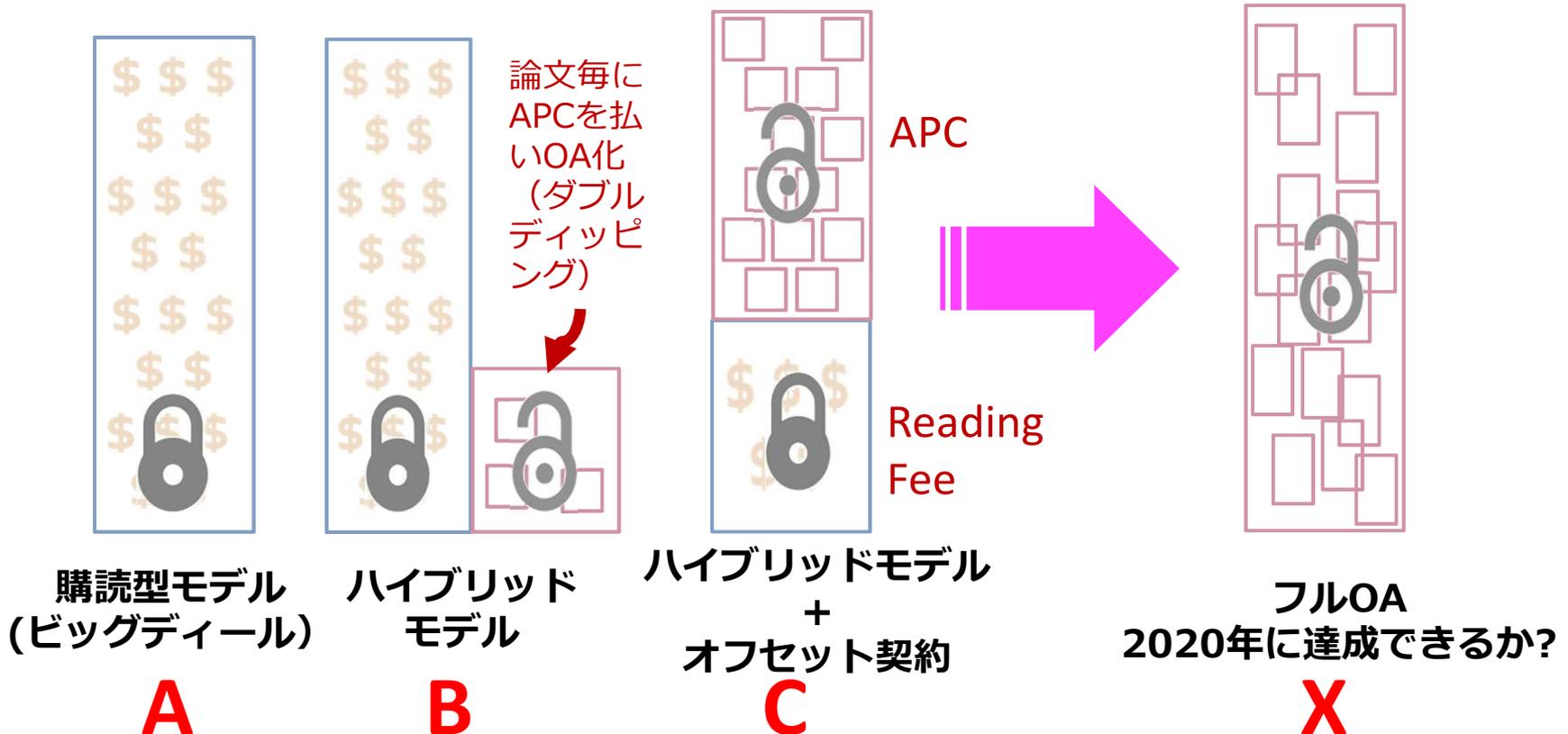
## Worldwide Publishing Market



[https://oa2020.org/wp-content/uploads/pdfs/B13\\_Dirk\\_Pieper.pdf](https://oa2020.org/wp-content/uploads/pdfs/B13_Dirk_Pieper.pdf)

# OA2020のロードマップ

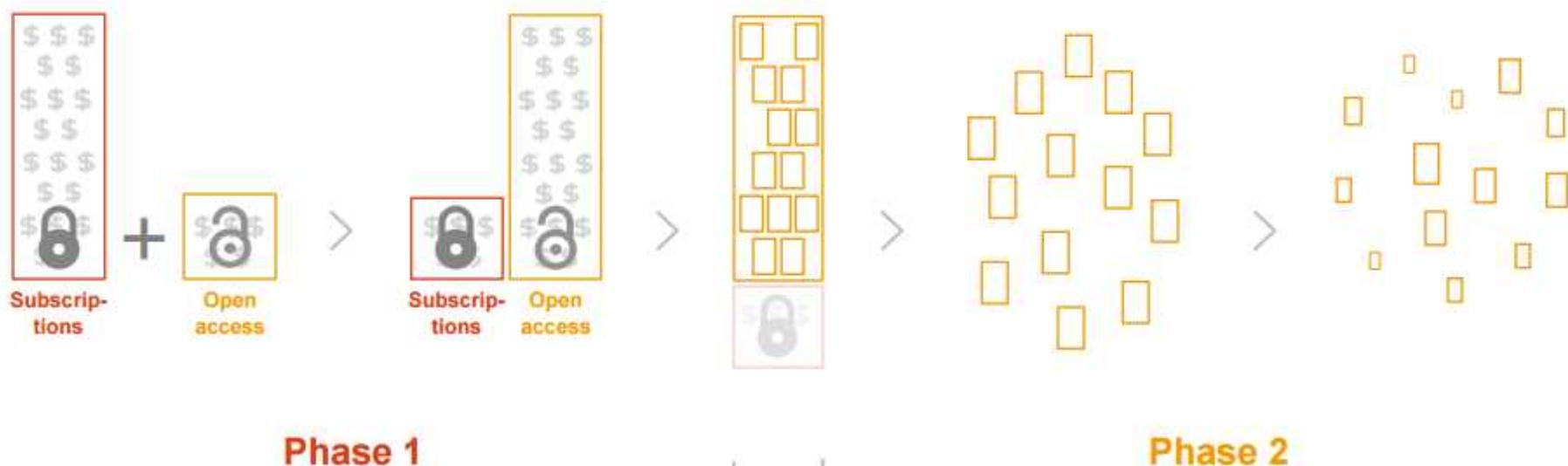
- A: 今までの購読型モデル
- B: ハイブリッドモデルで日本でもこれが使われている
- C: 欧州で試行中で、さらに強く求めていくモデル
- X: 既存の雑誌がフルOAとなる。2020に可能か？



# OA2020のロードマップ（続）

- 購読型モデル→オフセット契約→フルOA
- オフセット契約=転換のための過渡的なモデル≠新たな標準モデル

- 購読型モデルの完全消滅とAPCの市場化へ
- 一元的な価格 "one price fits all"から個々のジャーナルに応じた適正な値付け "pay as you publish"モデルへ



[https://oa2020.org/wp-content/uploads/pdfs/B13\\_Kai\\_Geschuhn.pdf](https://oa2020.org/wp-content/uploads/pdfs/B13_Kai_Geschuhn.pdf)

# JUSTICEでのOA対応の取り組み

---

## ● 論文公表実態調査

- 国内研究者が公表する論文のゴールドOA率やAPC支払推定額の把握のため、WoSからデータを抽出し集計作業を実施（2015.9～）

## ● 国際連携

- OA2020への関心表明（2016.8）
- ベルリン13会議へ出席、運営委員会の市古委員長が日本のNCPに就任（2017.3）

## ● 活動体制

- OA2020対応検討チームの設置（2017.6～）
  - 国内外のゴールドOAの動向に関する情報収集・提供
  - OA2020モデルの実現可能性の検討

# 論文公表実態調査（概要）

目的	a) 日本のAPC支払総額の把握 b) 購読モデルからOAモデルへの転換の可能性の検討
調査方法	Web of Scienceから論文データを抽出 他の情報と併せて各種集計作業を行う
調査期間	2015年9月～

# 論文公表実態調査（結果）

---

調査結果については  
JUSTICE活動報告資料  
をご参照ください。

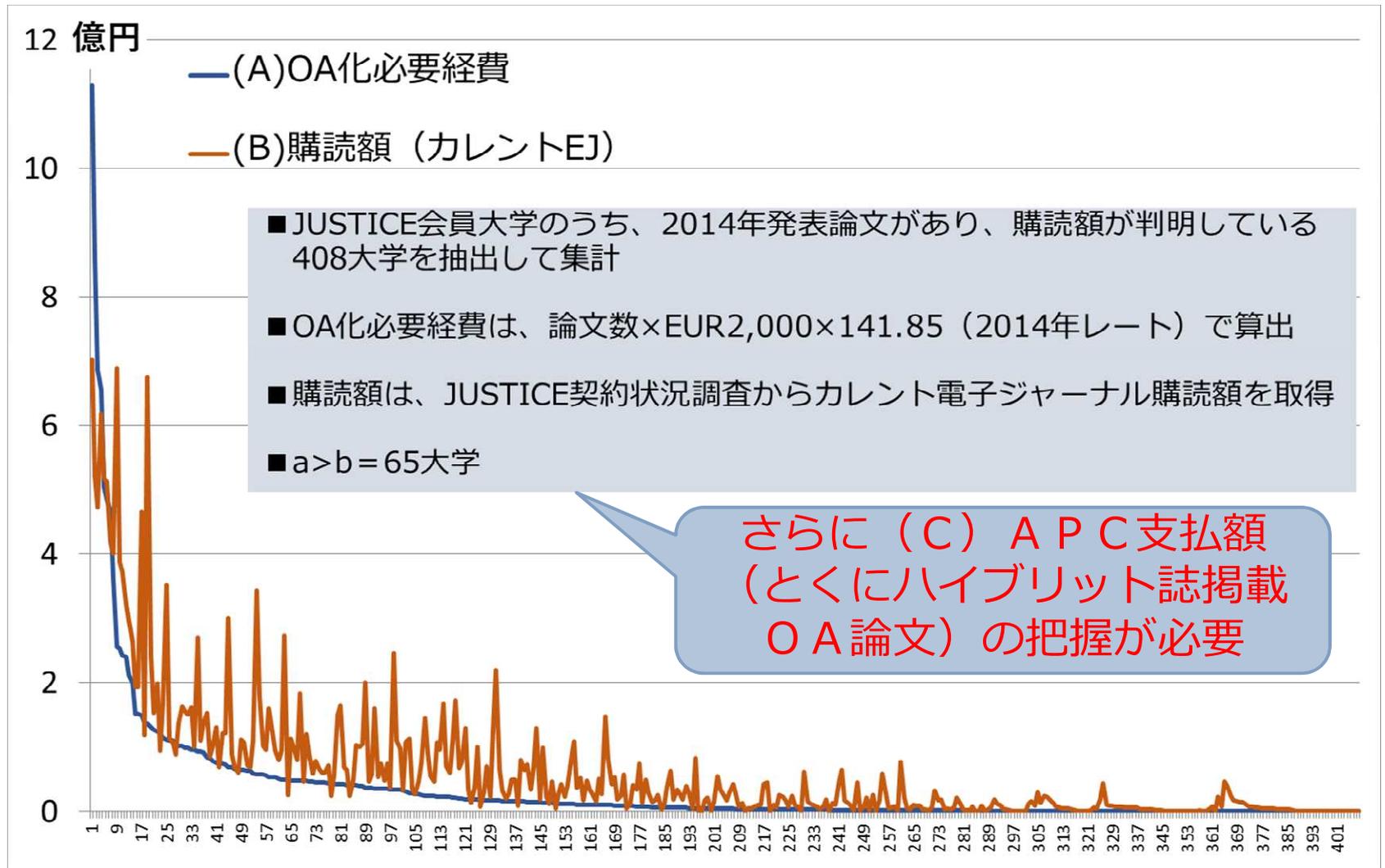
# “フリッピング”の試算 (JUSTICE版)

## JUSTICE会員館 Publishing Market

(うち408大学)



# OA化必要経費とジャーナル購読額



# 論点

---

- OA2020に対する懸念
  - 試算は妥当か？
  - そもそも出版社が対応するのか？
  - 特定の出版社への囲い込みになるのでは？
  - 特定の分野でしか成立しないのでは？
  - 国や研究助成機関の支援なしには困難では？
- 日本の目指す方向は？
  - ゴールドOAへの転換
  - ゴールドOA+グリーンOA
  - ビッグディールからの「秩序ある撤退」
  - 第三の道（商業出版社に依存しない学術情報流通の仕組み）